医学教育分野別評価

大阪医科大学医学部医学科
年次報告書
2020年度

評価受審年度2018(平成30)年

受審時の医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.2
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.32

本学医学部医学科は、2018年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2019年2月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版Ver.2.32を踏まえ、2020年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、0219年4月1日～2020年3月31日を対象としている。

改善した項目

２．　教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学
基本的水準　適合	
改善のための助言	
行動科学で学んだ基本的知識が臨床現場で実践できるようなカリキュラムを構築すべきである。	
改善状況	
第 3 学年新カリキュラム「医療プロフェッショナリズム・コア１」の「行動科学」の授業においては事後学習として、 ・「行動科学」コミュニケーション学：講義内容を振り返り、患者の心理と行動を考え、患者 - 医師間のコミュニケーションの留意点をまとめる。 ・「行動科学」プロフェッショナル教育：講義の内容を振り返り、将来のキャリアプランにどのようにいかせるかを考える。 という課題が課されており、将来のキャリアにも十分生かせるよう指導されている。 また、第 3 学年新カリキュラム「医療プロフェッショナリズム・コア１」には、「行動科学」だけではなく、「医療関連法規」、「医療経済・医療政策論」、「社会問題と医療」の授業とともに診断学講義～臨床技能実習（血液バイタル、医療面接、頭頸部／胸部、救急、四肢脊椎、胸部､）が盛り込まれておりキャリアを見据えた構造となっている。行動科学に基づいた基本となるコミュニケーションを臨床技能実習での医療面接に活かすことができており、クリニカル・クラークシップ、選択臨床実習における患者とのコミュニケーションや健康指導に活用し 、臨床実習後 OSCE で総括的評価を行っている。 以上の事から、指摘事項は実質的に改善済である。	
今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

２．　教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
質的向上のための水準　部分的適合	
改善のための示唆	
・低学年から段階的に臨床現場で患者に接して学ぶ機会を増やし、卒業時に達成すべきコンピテンスを修得できるように診療参加型臨床実習を充実させることが望まれる。 **・地域の医療・介護の現場で学ぶ臨床実習を充実させることが望まれる。**	
改善状況	
低学年から段階的に臨床現場で患者に接する機会を増やす 従来カリキュラムより、低学年から臨床現場を体験する機会を設定している（第 1・2 学年で「早期体験実習」、第 4 学年で「地域の保健所、老健康施設等における実習」。また新カリキュラムでは、臨床実習の開始時期を第 4 学年の 1 月開始に早期化（旧カリでは第 5 学年 5 月）している。 地域の医療・介護の現場で学ぶ臨床実習 また、新カリキュラム「臨床実習[アドバンスト･CC](特別演習/実習を含む)」では、学外病院に特化した実習になっており、中には地域開業医院もふくまれていることからこれまで以上に地域医療実習の充実と地域医療を担う人材の育成を目指すプログラムとなっている。 新カリキュラムによる 66 週の臨床実習は 2022 年度に完成年度を迎える。指摘事項は実質的に改善済である。	
今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

６．　教育資源	6.3 情報通信技術
基本的水準　部分的適合	
改善のための助言	
教室の Wi-Fi 環境をさらに整備すべきである。 診療参加型実習を効果的に行うために、PHS など、学生との連絡手段を確立すべ きである。	
改善状況	
①　新講義実習等及び本館・図書館棟の学生用 Wi-Fi をに高速化にした。 ②　また、学生との連絡手段として、第 5 学年全員に PHS を配付している。 以上の 2 点から、指摘事項については実質的に改善されていると考えられる。 2019 年度： 新カリキュラムでは、臨床実習開始学年が第 4 学年となる。2021 年 1 月からの 3 か月間は、4･5 学年の学生が臨床実習を同時に行う。そのため、あらたに PHS を増設する必要がある。そこで、2021 年 1 月からの新カリキュラムのコア クリニカル・クラークシップ開始から、PHS を 1 人 1 台配付するように準備を行っている。 また、2020 年度前期の新型コロナウイルス対策を機に、全員に大学のオフィシャルメールの使用を徹底した。	
今後の計画	
改善状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

１．　使命と教育成果	1.3 学修成果
基本的水準　適合	
改善のための助言	
コンピテンス/コンピテンシーを教員、学生など主要な教育の関係者にさらに周知を徹底すべきである。	
改善状況	
2019年度に実施した「学勢調査」においても、建学の精神、３つのポリシーの認知度について「理解いているか？」という設問を設けた。昨年度、認知度が低かったが、2019年度は下記の結果であった（資料1)。 ■建学の精神： 全体では約6割の学生が「建学の精神」をある程度以上に理解していると回答している一方、ほどんど理解していないと回答した学生も約1割いる。 ■ディプロマポリシー： 医学部のディプロマポリシーを全体の約半数の学生が比較的理解していると回答しているが、比較的理解していないとする学生が約3割いる。また全体の約2割の学生が知らないと答えており、とくに第3学年では約4割の学生が知らないと回答している。 2020年度のシラバスに「建学の精神」「使命」「目的」「ディプロマポリシー」の相関図を掲載（資料2)、オリエンテーションにおいてもそれぞれの説明を実施する予定であったが、新型コロナウイルス対策のため、オリエンテーションを短縮して実施しなければならなかった関係上、ユニバーサルパスポートに「建学の精神」「使命」「目的」「ディプロマポリシー」の相関図を掲載し「建学の精神」「ポリシー」が記されたミニカードを配布した（資料3）。 コンピテンス/コンピテンシーについては、その達成度を調査した。ほとんどの項目において身についたとする学生の割合が全体で約7割となっており、とくに第5・6学年ではその割合が約8割を占めている。身につかなかったとする学生の割合も1割程度にとどまっているため、全体として学生のディプロマポリシーに関する達成の自己評価は高いと言える。ただし、国際性に関する項目では、身についたとする学生の割合が全体で半数程度であり、まったく身につかなかったとする学生も約1割いることから今後も課題となる。	
今後の計画	
学生調査は今後も継続していく。「建学の精神」「ディプロマポリシー（コンピテンス/コンピテンシー)」の周知徹底については、学生だけではなく、教職員にも目に触れる機会、確認する機会を増やす必要がある。 コンピテンスの一つである「医療の社会性と国際性」に関しては、昨年度に引き続き、海外大学と単位互換や交流や国際性そのものの内容を広げていく努力を続けていく（現在、新型コロナウイルス対策のため海外大学との交流中断)。	
改善状況を示す根拠資料	
資料1　2019年度学勢調査 - 学修成果部分 - https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html 資料2　医学部2020年度シラバス掲載ページ https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/syllabus.html 資料3　オリエンテーション配布ミニカード	

１．　使命と教育成果	1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準　部分的適合

改善のための助言

今後「使命」や「学修成果」を見直す際には、教員だけでなく、職員や学生代表も参加すべきである。

改善状況

大阪医科大学教育戦略会議及び研究戦略会議規則（資料4）の細則（資料5）第2条に、使命と学修成果、ポリシーの策定及び検証、3ポリシーに基づく学習成果、教育課程及び入学者選抜の成果の検証について下記示されており、学内での審議体制は整っていると言える。

使命と学修成果策定に係わる「戦略会議」の業務を第三者的視点から検証し支援するための「教学点検・評価委員会」が新たに設置された（2019（令和元）年10月17日）。「教育戦略会議」「教学点検・評価委員会」ともに委員には職員が含まれている（資料6）。「大阪医科大学教学点検・評価委員会規程」の第2項にはその検証対象が記されており、「各種方針の検証結果（本学の中長期計画を含む。）」、「その他、質保証の向上に必要な事項」が含まれている。

全学的な内部質保証に関わる組織図、及び PDCA サイクルの運用プロセスの概念については、大阪医科大学内部質保証と自己点検の概念図を用いて視覚化している（資料 7）。

「戦略会議」と「教学点検・評価委員会」の位置づけとしては、戦略会議は、内部質保証のための全学的な方針・施策や教学マネジメントの目標・計画の設定を行い、各学部および各研究科の学内組織に具体的な対応を指示する。学内組織は、目標や方向性等に基づく教育研究活動を展開するとともに、PDCA サイクルにより自己点検・評価を行い戦略会議に報告する。それらを踏まえて、戦略会議において、策定した方針や施策の検証・改善を行う。これらの全学的内部質保証システムが適正におこなわれているか、戦略会議の機能を含めて教学点検・評価委員会が検証する。

また、学修成果については、2019年度よりカリキュラム評価委員会に、医学部学生2名（第4学年代表1名、第6学年代表1名）が含まれている（資料8）。カリキュラム評価委員会は1年に2回以上定時的に開催し、1回は本学医学部教育課程への指摘と内部質保証に関する取り組みに対する評価、もう1回は具体的なカリキュラムの審議を行っている（資料9）。

2019年度に「大阪医科大学3ポリシーの運用のための方針」を策定し、方針内には「3ポリシーは、本学の使命・教育目的の実現のため、「内部質保証のための方針」に基づく教育活動の改革又は改善のためのPDCAサイクルの起点として定期的に検証し、もって大学教育の質的転換を図るとともに、ステークホルダーに対して積極的に公表する。また、全ての教職員は、３ポリシーを共通理解の上、連携して教育活動を展開しなければならない。」と記載されおり、本学内部質保証の礎となっている（資料10）。

今後の計画

本学では、戦略会議が全学的な教学マネジメントの観点から内部質保証を推進している。教学に関する全学的な施策や方針が、学部、教育センター、大学院研究科などの各部署・組織に明確に伝わることで着実に実施され、且つそれらの部署におけ

るPDCAサイクルも適切に機能させている。その結果が上述の各部署の長から戦略会議に報告され、次年度以降の施策や方針の改善に繋がる仕組み（本学の内部質保証システム）を構築している。さらに、それら内部質保証システムを含む戦略会議が行う教学に関する諸活動を教学点検・評価委員会により検証し、運営を支援する体制の整備も進めている。2020年度は教学点検・評価委員会を実働させる。また、教学に関する各部署のPDCAサイクル機能をより高めるためには、全学的内部質保証推進組織である戦略会議において策定された方針が各部署と情報共有されることが極めて肝要である。3ポリシー策定のための考え方や、アセスメントポリシーなどに関して、各部署、各教職員に周知し、またそれらからフィードバックを得る目的で、本学においては、医学教育ワークショップ（資料11）を始め、種々のFDを積極的に開催し、さらに学長主催の教職員・学生を対象とするFD&SD「教育・研究」集会（資料12）を定期的に開催しているが、継続が必要である。

改善状況を示す根拠資料

資料4　大阪医科大学 教育戦略会議及び研究戦略会議規程
資料5　大阪医科大学 教育戦略会議及び研究戦略会議細則
資料6　大阪医科大学教学点検・評価委員会規程
資料7　大阪医科大学内部質保証と自己点検の概念図
資料8　大阪医科大学医学部カリキュラム評価委員会規程
資料9　【学外秘】2019年度カリキュラム評価委員会議事録
資料10　大阪医科大学3ポリシーの運用のための方針
資料11　2019（平成31）年度 教育関連FD
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fg7m.html
資料12　ＦＤ＆ＳＤ「教育･研究集会」概要
https://www.osaka-med.ac.jp/about/f2pjgc000000641e.html

１．　使命と教育成果	1.4 使命と成果策定への参画

質的向上のための水準　部分的適合

改善のための示唆

使命と学修成果の策定には、より広い範囲の教育の関係者の参加が望まれる。

改善状況

大阪医科大学教育戦略会議及び研究戦略会議細則（資料4）第2条に、使命と学修成果、ポリシーの策定及び検証、３ポリシーに基づく学習成果、教育課程及び入学者選抜の成果の検証について下記示されており、学内での審議体制は整っていると言える。

使命と学修成果策定に係わる「戦略会議」の業務を第三者的視点から検証し支援するための「教学点検・評価委員会」が新たに設置された（2019（令和元）年10月17日）。この「教学点検・評価委員会」には自治体、企業など広い範囲の学外教育関係者も含まれている（資料6）。「大阪医科大学教学点検・評価委員会規程」の第2項にはその検証対象が記されており、「各種方針の検証結果（本学の中長期計画を含む。）」、「その他、質保証の向上に必要な事項」が含まれている。

全学的な内部質保証に関わる組織図、及びPDCAサイクルの運用プロセスの概念については、大阪医科大学内部質保証と自己点検の概念図を用いて視覚化している（資料7）。

「戦略会議」と「教学点検・評価委員会」の位置づけとしては、戦略会議は、内部質保証のための全学的な方針・施策や教学マネジメントの目標・計画の設定を行い、各学部および各研究科の学内組織に具体的な対応を指示する。学内組織は、目標や方向性等に基づく教育研究活動を展開するとともに、PDCA サイクルにより自己点検・評価を行い戦略会議に報告する。それらを踏まえて、戦略会議において、策定した方針や施策の検証・改善を行う。これらの全学的内部質保証システムが適正におこなわれているか、戦略会議の機能を含めて教学点検・評価委員会が検証する。

また、学修成果については、2019年度よりカリキュラム評価委員会に、高槻市にある企業からの委員、学外病院からの委員を１名ずつ追加した（資料8）。カリキュラム評価委員会は1年に2回以上定時的に開催し、1回は本学医学部教育課程への指摘と内部質保証に関する取り組みに対する評価、もう1回は具体的なカリキュラムの審議を行っている（資料9）。

2019年度に「大阪医科大学3ポリシーの運用のための方針」を策定し、方針内には「3ポリシーは、本学の使命・教育目的の実現のため、「内部質保証のための方針」に基づく教育活動の改革又は改善のためのPDCAサイクルの起点として定期的に検証し、もって大学教育の質的転換を図るとともに、ステークホルダーに対して積極的に公表する。また、全ての教職員は、3ポリシーを共通理解の上、連携して教育活動を展開しなければならない。」と記載されおり、本学内部質保証の礎となっている（資料10）。

今後の計画

本学では、戦略会議が全学的な教学マネジメントの観点から内部質保証を推進している。教学に関する全学的な施策や方針が、学部、教育センター、大学院研究科などの各部署・組織に明確に伝わることで着実に実施され、且つそれらの部署におけるPDCAサイクルも適切に機能させている。その結果が上述の各部署の長から戦略会議に報告され、次年度以降の施策や方針の改善に繋がる仕組み（本学の内部質保証

システム）を構築している。さらに、それら内部質保証システムを含む戦略会議が行う教学に関する諸活動を教学点検・評価委員会により検証し、運営を支援する体制の整備も進めている。2020年度は教学点検・評価委員会を実働させる。また、教学に関する各部署のPDCAサイクル機能をより高めるためには、全学的内部質保証推進組織である戦略会議において策定された方針が各部署と情報共有されることが極めて肝要である。3ポリシー策定のための考え方や、アセスメントポリシーなどに関して、各部署、各教職員に周知し、またそれらからフィードバックを得る目的で、本学においては、医学教育ワークショップ（資料11）を始め、種々のFDを積極的に開催し、さらに学長主催の教職員・学生を対象とするFD&SD「教育・研究」集会（資料12）を定期的に開催しているが、継続が必要である。

改善状況を示す根拠資料

資料4　大阪医科大学 教育戦略会議及び研究戦略会議規程
資料5　大阪医科大学 教育戦略会議及び研究戦略会議細則
資料6　大阪医科大学教学点検・評価委員会規程
資料7　大阪医科大学内部質保証と自己点検の概念図
資料8　大阪医科大学医学部カリキュラム評価委員会規程
資料9　【学外秘】2019年度カリキュラム評価委員会議事録
資料10　大阪医科大学3ポリシーの運用のための方針
資料11　2019（平成31）年度 教育関連FD
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fg7m.html
資料12　ＦＤ＆ＳＤ「教育･研究集会」概要
https://www.osaka-med.ac.jp/about/f2pjgc00000064le.html

２．　教育プログラム	2.1 プログラムの構成

基本的水準　適合

改善のための助言

学生が自らの学習に責任を持ち、準備を促すような能動的学習法をさらに推進すべきである。

改善状況

昨年度に引き続き、シラバスに学生に能動的学習を促すべく、2020 年度シラバス作成に関して、全科目教員向けWS（説明会）を実施した（資料13、資料14、資料15、資料16）。
昨年度説明した上記内容に加え、下記を追加。
①シラバスの形成的評価と総括的評価の割合を見直し、明記すること
②「科目ナンバリング」制度（2020年度シラバスより医学部・看護学部両学部において導入）（資料17）：すでに導入しているカリキュラムマップ（履修系統図）やレベルマトリクスとリンクさせており、全科目必修という環境ながら、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するよう努めている。
また、ICT を活用した双方向授業や自主学習支援の導入（資料 18）についても重ねて強調されたが、新型コロナウイルス対策の関係で 2020 年度初めより「遠隔授業」で進めることで本学の ICT を活用した双方向授業や自主学習支援の導入は飛躍しつつある。

今後の計画

アフターコロナを見据え、授業だけでなく、自主学習支援としての「遠隔化」拡大を目指す。また、能動的学習の一つの方法として、、臨床系教室による「大阪医科大学臨床テキストブック（Web 版）」を作成している。本機能の予習を前提とした反転授業など、使用拡大を目指したい。

改善状況を示す根拠資料

資料13　第83回大阪医科大学医学教育WS案内文
資料14　第83回大阪医科大学医学教育WS次第
資料15　第83回大阪医科大学医学教育WS資料「2020年度シラバス作成方法」
資料16　第83回大阪医科大学医学教育WS資料「2020年度シラバス作成方法－コアCC－」
資料17　医学部科目ナンバリング
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000cq1i.html
資料18　大阪医科大学医学部2019年度開講科目アクティブラーニング実施状況一覧

２．　教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準　部分的適合	
改善のための助言	
全学生を対象とした研究室配属をさらに充実させ、研究マインドの涵養を図るべきである。	
改善状況	
2019年度は、第１学年の「学生研究１」に引き続き第3学年での「学生研究」初年度であった。本授業は、9/18（水）から始まり、最初は週1回の全体オリエンテーション、研究倫理委員長による説明、医学統計演習、実験に関する注意事項（遺伝子組み換え実験、微生物使用実験、動物実験等の倫理)、電子カルテなど臨床に関する倫理について説明がなされた。コア期間では本学25部署、他大学25研究室で学生を受入れ、11/25-12/20の約2ヶ月間にわたり、配属研究室における研究プログラムが実施された。次年度の第4学年では、実験の継続、全員に研究発表を課している（資料19、資料20）。	
今後の計画	
「学生研究１」～「学生研究 3」を磐石化させ、2021 年度から始まる「データサイエンス科目」との絡みも持たせてゆきたい。	
改善状況を示す根拠資料	
資料19　2020年度全学年共通シラバス第1学年「学生研究1」p.133、第3学年「学生研究2」p.329 https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/syllabus.html 資料20　【学外秘】2019年度医学部第3学年学生研究２実施要項	

２．　教育プログラム	2.5 臨床医学と技能

基本的水準　部分的適合

改善のための助言

臨床現場において、計画的に患者と接する教育プログラムを教育期間中に十分持つべきである。
重要な診療科で学習する時間を十分に確保すべきである。

改善状況

2020 年度第 4 学年の 1 月～新カリキュラムの臨床実習である「コア・CC」が開始される。その準備のため毎週「５・６年カリキュラム小委員会」を開催している。
7/23に第81回医学教育センターワークショップ「研修医レベルを目指した診療参加型臨床実習～コア＆アドバンス･クリニカル･クラークシップに向けて～Ver.2」(資料21)、10/8に第86回医学教育センターワークショップ「研修医レベルを目指した診療参加型臨床実習～コア＆アドバンス・クリニカル・クラークシップに向けて～Ver.3」(資料22)、1/28に第92回医学教育センターワークショップ「2020年度 第4学年新カリキュラム開始前説明会」を開催(資料23)、12/11に第8回 ＦＤ＆ＳＤ「教育･研究集会」(資料12) においても「ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ ｸﾘ･ｸﾗ ～大きく変わるｸﾘ･ｸﾗ～」と題して教員・学生にその意義について周知徹底を図っている。
また、「アドバンス・CC」では学外の臨床実習協力病院の指導医（臨床教育教授および准教授）に対して、新カリキュラムを説明する必要がある。そのため現在、選択臨床実習を行っている協力病院の指導医を対象に、「アドバンス・CC」の説明会（2020年3月19日･23日）を行い。アンケート実施した(資料24)。

今後の計画

引き続き、「５・６年カリキュラム小委員会」を開催して、「コア・CC」シラバス作成にむけての準備を行っている。また、本委員会は「アドバンス・CC」開始(2022年１月)に向けて、臨床実習協力病院の指導医を対象とした FD プログラムの策定の準備を行っている。

改善状況を示す根拠資料

資料21　第81回医学教育センターワークショップ資料
資料22　第86回医学教育センターワークショップ資料
資料23　第92回医学教育センターワークショップ案内文
資料12　第8回 ＦＤ＆ＳＤ「教育･研究集会」概要
https://www.osaka-med.ac.jp/about/f2pjgc000000641e.html
資料24　2019年度大阪医科大学附属病院連携病院長会・2020年度　ADCC（旧選択臨床実習）説明会アンケート結果まとめ

２．　教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育機関

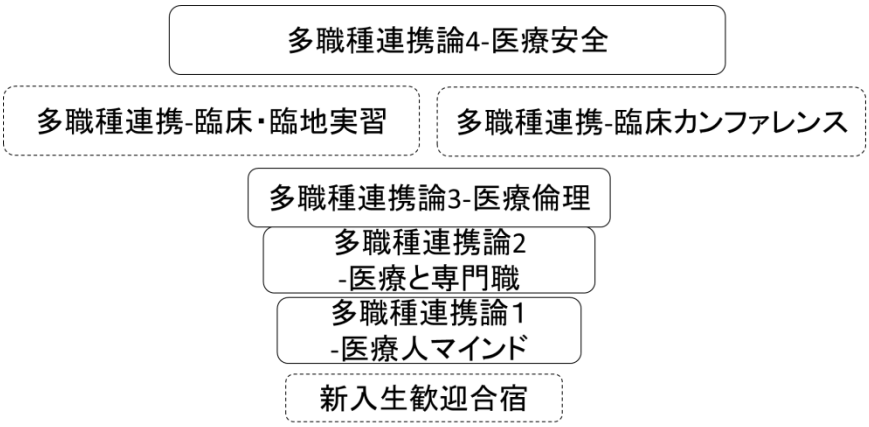
質的向上のための水準　部分的適合

改善のための示唆

複数の分野からの多面的アプローチにより統合的理解が深まるようなカリキュラム（水平的統合、垂直的統合）を、さらに充実させることが望まれる。

改善状況

2019 年度：
2021年度に大阪薬科大学と統合するにあたり、「IPEカリキュラム」について多職種融合小委員会にて改革を進めている（資料25、資料26）。
取組み課題
■適切な IPE に関する形成的評価の模索
■IPE に関するポートフォリオ導入で「6 年間の連続性を担保する」ための工夫、「これまでの学びを踏まえて再度深く考えること」と連続性を重視
■学生がその科目の学修意義を理解できるようにすること→多職種連携の科目であることを理解してもらうため科目名統一を図る



また、2019年度は第3学年が新カリキュラムとなり、垂直的統合の「学生研究」「医療プロフェッショナリズム」「診断学入門コース」（臨床技能実習、臨床推論）、などの授業が開始された。「ＰＢＬ」においては、各コースの中に、「薬物療法２」や「病気のなりたち２」などをちりばめ、基礎医学と臓器別コーストを有機的に連携させるカリキュラムとなっている（資料19）。

今後の計画

2020 年度には「IPE カリキュラム」におけるクリニカル・クラークシップ合同カンファレンス拡大トライアルを予定している。現在、精神科と産科のみで看護学部と実施しているが、今後は、薬学も交え合同カンファレンス可能な診療科を増やしていく。

改善状況を示す根拠資料

資料25　【学外秘】大学統合に関する分科会グループ1議事録
資料26　【学外秘】多職種融合カリキュラム小委員会議事録
資料19　2020年度全学年共通シラバス第3学年「病気の成り立ち2」p.332、「薬物療法2」p.334
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/syllabus.html

２．　教育プログラム	2.7 プログラム管理

質的向上のための水準　部分的適合

改善のための示唆

カリキュラム委員会に教員と学生以外のより広い範囲の教育の関係者を含むことが望まれる。

改善状況

カリキュラム委員会への教員と学生以外の関係者参画は未整備であるが、2019 年度よりカリキュラム評価委員会は年に２回開催することとし、
１回目：前年度のカリキュラム、学修成果振り返り
２回目：特定のカリキュラムにスポットを当て、検討
とすることとなった。またカリキュラム評価委員会には、2019年度8月より市立ひらかた病院長に委員として入っていただくこととなり、2019年10月28日の２回目の会議においては「新カリキュラム臨床実習アド・CC」について広いご意見をいただいた（資料8、資料9)。
また、「新カリキュラム臨床実習」については、次のように学外教育関係者にも本学の方針やその改善点について意見を聞く場を設けた。
・11/21 開催の近隣機関病院長会議（広域医療開催）
・2020 年度臨床教育教授、准教授対象説明会
において、副センター長より、
・本学の目指すべき目標（建学の精神、ＤＰなど）
・新カリキュラム「アドバンス・CC」
について説明。アンケート実施し、ご意見をいただいた（資料 24）。その結果については、2020 年１月開催のカリキュラム委員会でも報告（資料 27）、引き続き毎週行っている 5.6 年カリキュラム小委員会で新カリキュラム「アドバンス・CC」に落とし込みをかけている。

今後の計画

・11/21 開催の近隣機関病院長会議（広域医療開催）
・2020 年度臨床教育教授、准教授対象説明会
への調査は継続して行うものとし、いただいたご意見はカリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会で検討し、実際のカリキュラムに落とし込んでいけるようにする。

改善状況を示す根拠資料

資料8　大阪医科大学医学部カリキュラム評価委員会規程
資料9　【学外秘】2019年度カリキュラム評価委員会議事録
資料24　2019年度大阪医科大学附属病院連携病院長会・2020年度　ADCC（旧選択臨床実習）説明会アンケート結果まとめ
資料27　【学外秘】2020年1月15日開催カリキュラム委員会議事録

２．　教育プログラム	2.8 臨床実践と医療制度の連携

質的向上のための水準　部分的適合

改善のための示唆

・卒業生の研修先となりうる施設から卒業生の評価等の情報を得て、カリキュラムの改良に用いることが望まれる。
・教育プログラムの改良に系統的に地域や社会の意見を取り入れることが望まれる。

改善状況

研修先からの評価
2019 年度末に卒業生研修先および学生臨床実習先にアンケートを実施。大阪医科大学「建学の精神」「使命」「ポリシー」等の相関図を示したうえで、大阪医科大学医学部「ディプロマポリシー」をもとに、今後医師となる者が身に着けておくべきだと思われる項目、本学卒業生の知識・技能・態度別の評価について調査した（資料 28）。
それらの情報を「カリキュラム評価委員会」や「医学教育センター会議」、「医学部教授会」でも報告・検証し、カリキュラム検討資料として活かしている（資料 29、資料 30）。

教育プログラムの改良に地域や社会の意見を取り入れる
2019 年度よりカリキュラム評価委員会は年に２回開催することとし、
1 回目：前年度のカリキュラム、学修成果振り返り
2 回目：特定のカリキュラムにスポットを当て、検討
とすることとなった。またカリキュラム評価委員会には、2019年度8月より市立ひらかた病院長に委員として入っていただくこととなり、2019年10月28日の２回目の会議においては「新カリキュラム臨床実習アド・CC」について広いご意見をいただいた（資料9）。
「新カリキュラム臨床実習」については、次のように学外教育関係者にも本学の方針やその改善点について意見を聞く場を設けた。
・11/21 開催の近隣機関病院長会議（広域医療開催）
・2020 年度臨床教育教授、准教授対象説明会
において、副センター長より、
・本学の目指すべき目標（建学の精神、ＤＰなど）
・新カリキュラム「アドバンス・CC」
について説明。アンケート実施し、ご意見をいただいた（資料24）。その結果については、2020年１月開催のカリキュラム委員会（資料27）でも報告、引き続き毎週行っている5.6年カリキュラム小委員会で新カリキュラム「アドバンス・CC」に落とし込みをかけている。

今後の計画

2019 年度から開始した卒業 2 年目（研修 2 年目修了予定者）が研修している機関からのフィードバックを継続してゆき、本学のカリキュラムへの評価について、単年度評価だけでなく、ある程度のスパンを決めて纏まった評価もＩＲ室に分析依頼し、カリキュラムの適切性等について検証を行っていきたい。

改善状況を示す根拠資料

資料28　医学部教育の成果に関するアンケート調査（卒業生研修先アンケート）
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000ffvc.html

資料29　【学外秘】2020年6月医学教育センター会議議事録
資料30　【学外秘】2020年6月17日医学部教授会議事録
資料9　【学外秘】2019年度カリキュラム評価委員会議事録
資料24　2019年度大阪医科大学附属病院連携病院長会・2020年度　ADCC（旧選択臨床実習）説明会アンケート結果まとめ
資料27　【学外秘】2020年1月15日開催カリキュラム委員会議事録

３．　学生評価	3.1 評価方法

基本的水準　判定：部分的適合

改善のための助言

・追再試の要件を開示すべきである。
・認知領域以外の評価を確実に行うために、各診療科における WBA 実施状況の差異を是正し、また e-ポートフォリオ利用の拡充を進めるべきである。
・学生の評価がどのように実施されるのか、シラバス上の記載を各科目のみならず、大学として管理し整合性をもたせるべきである。
・評価を外部の専門家によって精密に吟味すべきである。

現在の状況

・追再試の要件を開示すべきである。

2021 年度に大阪薬科大学と統合するにあたり、各学部規程（資料 31）を作成する予定である。医学部規程には下記盛り込む予定であり、従来よりも追再試の要件が明確になる。

医学部規程（案）より

（追試験）

第１７条　試験を受けなかった者のうち、当該授業科目の担当教員、教育センターが、病気、災害その他やむを得ない理由によって試験を受けることができなかったと認定した者については、所定の様式(様式３号)による願い出に基づき追試験を行うことができる。

２　追試験は次の各号を満たしている場合に、受験することができる。

(1)　定期試験の受験資格を満たしていること。

(2)　病気その他やむを得ない理由により定期試験の欠席が認められていること。

(3)　定められた期間に受験手続きをしていること。

３　追試験の成績評価は１００点法によって評価し、６０点以上を合格、５９点以下を不合格とする。

（再試験）

第１８条　試験において不合格となった場合は、当該授業科目の担当教員、教育センターが特に必要と認めた場合、再試験を行うことがある。再試験の受験を希望する者は定められた期間内に再試験受験願の提出しなければならない。

２　再試験は次の各号を満たしている場合に、受験を認めることがある。

(1)　定期試験の受験資格を満たしていること。

(2)　定められた期間に受験手続きをしていること。

３　再試験の成績評価は１００点法によって評価し、６０点以上を合格、５９点以下を不合格とする。但し、６０点以上の得点であってもすべて６０点として評価する。

・認知領域（知識）以外の評価を確実に行うために、各診療科におけるWBA実施状況の差異を是正し、またe-ポートフォリオ利用の拡充を進めるべきである。

2019年度より第6学年の「選択臨床実習（旧カリキュラム)」においても「自己評価（患者との向き合い方)」「学生評価（指導医や実習全体に関すること)」について入力させている（資料32)。また、2020年度第4学年の1月～新カリキュラムの臨床実習である「コア・CC」が開始されるが、「自己評価」「学生評価」は継続する予定である。

・学生の評価がどのように実施されるのか、シラバス上の記載を各科目のみならず大学として管理し整合性を持たせるべきである。

成績評価においては、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し（資料料 33)、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施している（資料 34）また、学

修の成果に係る評価及び卒業又はに終了の認定に当たっての基準についてもＧＰＡ含め「大阪医科大学学則」21 条に基づき指標を設定している（資料 35）。
＝大阪医科大学学則＝
第２１条　授業科目の履修の認定は、試験その他の評価により行う。
評価は１００点法によって行い、６０点以上を合格、５９点以下を不合格とし、９０点以上を秀（Ｓ）、８０点以上８９点以下を優（Ａ）、７０点以上７９点以下を良（Ｂ）、６０点以上６９点以下を可（Ｃ）、５９点以下を不可（Ｄ）と表示する。
不合格となった授業科目については、再試験を行うことがある。
試験及び評価の実施に関し必要な事項は、学部長が当該教授会の議を経て、学長に報告し、学長が決定する。
第２１条の２　前条の評価に対してグレード・ポイント（以下、「ＧＰ」という。）を設定し、下記の計算式によりＧＰの平均値であるグレード・ポイント・アベレージ（以下、「ＧＰＡ」という。）を算出する。
ＧＰＡ＝｛（評価を受けた科目のＧＰ）×（当該科目の単位数）｝の累計／履修単位数の合計（Ｄの単位数を含む。）
成績の評価に対するＧＰは、Ｓが４点、Ａが３点、Ｂが２点、Ｃが１点、Ｄが０点とする。

またＧＰＡに関しては公表及び成績評価の適切な実施に係る取組みとして、本学ホームページ上でのシラバス公開（シラバス内に「学則」を掲載している）だけでなく、下記ＵＲＬにても「医学部 GPA（Grade Point Average）実施について」を掲載している。学生個々のＧＰＡ公表については、成績通知に掲載およびポータルサイトでも閲覧可能となっている。
第１～5 学年については、科目ごとのＧＰ分布と学年ＧＰＡ分布をＩＲ室が分析している。ＧＰＡ分布については、諸会議でも検証しており、学年ごとの単年度ＧＰＡ分布についてもＨＰにて公表している。

・評価を外部の専門家によって精密に吟味すべきである。
カリキュラム評価委員会を最低でも 1 年に 2 回開催し、1 回は本学医学部教育課程への指摘（年度カリキュラムの振り返り）と内部質保証取組みに対する評価、もう 1 回は具体的なカリキュラムの審議としている。
2019年度実績
・1回目：2019年5月21日
・2回目：2019年10月28日
1回目会議では、学年GPA分布について議題にあげており「医学部におけるGPA利用方法」について外部委員含め広く意見を伺っている。また、2回目会議では、主に新カリキュラムのクリニカル・クラークシップに関する討議を行った（資料9）。

今後の計画

新カリキュラムが完成年度を迎えるのは 2022 年度であり、常にディプロマポリシー（学位授与の方針）に掲げるコンピテンシーズと各科目との結びつきを明確にし続ける努力をしてゆきたい。各科目の評価ももちろん重要であるが、常に大阪医科大学として目指すべきところを意識したカリキュラムを維持できるよう点検、評価を継続してゆく。

現在の状況を示す根拠資料

資料 31　【学外秘】大阪医科薬科大学医学部規程（案）

資料32　2019年度第5・6学年臨床実習における「自己評価（患者との向き合い方)」「学生評価（指導医や実習全体に関すること)」
第5学年：
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fezm.html
第6学年：
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000ffl0.html
資料33　医学部GPA（Grade Point Average）実施について
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/gpa.html
資料34　学年ごとの単年度ＧＰＡ分布
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/gpa2019.html
資料35　大阪医科大学学則
資料9　【学外秘】2019年度カリキュラム評価委員会議事録

３．　学生評価	3.1 評価方法

質的向上のための水準　部分的適合

改善のための示唆

・IR 室の機能をさらに発揮し、各種評価方法の信頼性、妥当性の検証を進めることが望まれる。
・外部評価者の活用をさらに進めることが望まれる。

現在の状況

IR 室の機能をさらに発揮し、各種評価方法の信頼性、妥当性の検証を進めることが望まれる。

アセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）に基づく点検と評価のうち、とりわけ課程レベルにおいては~~学年~~、学生個々の成績や評価に関わるデータを統計的に処理して可視化することが必要となる。そのため、教育の改善に資する調査・分析の客観的データによるトップマネジメントへの知見の提供と学生の質向上に資することを目的とした IR 室を置き、教育成果に関する情報収集・分析内容を根拠として、点検・評価に活用している。IR 室による分析は、おもに医学教育センターから提供された学生の成績を中心とする学修データに基づいて行う。統計的分析の結果は、医学教育センター会議、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会といった課程レベルの会議・委員会に資料として提出され、科目やカリキュラムの妥当性の評価、さらには改善・向上に向けた施策の根拠としている（資料 7、資料 36）。

【2019 年度ＩＲ室による分析例】
・2019 年度医学部入学試験ごとの入学後の成績分析（資料 37）
・GPA 分布（経年比較あり）（資料 34）
・第 5 学年臨床実習履修評価試験の検証に向けての予備分析（資料 38）
・第4学年共用試験CBTにみる第3学年総合試験導入前後の変化（資料39）
・学勢調査 - 学修成果部分 -（資料 1）
・2019 年度卒後研修医評価と卒前総合試験成績の関連（資料 40）

外部評価者の活用をさらに進めることが望まれる。

カリキュラム評価委員会にはすでに他大学や一般企業からの外部委員が入っていたが、2019 年度 8 月より市立ひらかた病院長にも外部委員として入っていただくこととなった。初回の 2019 年 10 月 28 日の会議においては新カリキュラム臨床実習「アドバンス・CC」について広いご意見をいただいた（資料 9）。

また、全学的な内部質保証が体系的に適切に行われているか、「戦略会議」の業務を第三者的視点から検証し支援するための「教学点検・評価委員会」が（2019（令和元）年 10 月 17 日）新たに設置され、他大学の外部委員を含んでいる（資料 6）。

今後の計画

IR 室の機能をさらに発揮し、各種評価方法の信頼性、妥当性の検証を進めることが望まれる。

本学では、戦略会議が全学的な教学マネジメントの観点から内部質保証を推進している（資料4、資料5）。戦略会議のメンバーには学部長、教育センター長、大学院委員長、入試・広報統括責任者、学務部長が参画しており、教学に関する全学的な施策や方針が、学部、教育センター、大学院研究科などの各部署・組織に明確に伝わることで着実に実施され、且つそれらの部署におけるPDCAサイクルも適切に機能させている。その結果が上述の各部署の長から戦略会議に報告され、次年度以降の

施策や方針の改善に繋がる仕組み（本学の内部質保証システム）を構築している。さらに、それら内部質保証システムを含む戦略会議が行う教学に関する諸活動を教学点検・評価委員会により検証し、運営を支援する体制の整備も進めている。
IR 室（資料 41）による分析データを使用した会議は定着してきたと言えるが、学部だけでない大学全体としての内部質保証サイクルにも引き続き IR 室による分析データを活用してゆきたい。

外部評価者の活用をさらに進めることが望まれる。
カリキュラム評価委員会は、2019 年度実施分より定着しつつあるが、「教学点検・評価委員会」を本格始動させなければならない。

現在の状況を示す根拠資料

資料7　大阪医科大学内部質保証と自己点検の概念図
資料 36　大阪医科大学学部教育内部質保証関係図
資料 37　【学外秘】2019 年度医学部入学試験ごとの入学後の成績分析
資料 34　学年ごとの単年度ＧＰＡ分布
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/gpa2019.html
資料 38　第 5 学年臨床実習履修評価試験の検証に向けての予備分析
資料39　第4学年共用試験CBTにみる第3学年総合試験導入前後の変化
資料1　2019年度学勢調査 - 学修成果部分 -
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料 40　【学外秘】2019 年度卒後研修医評価と卒前総合試験成績の関連
資料 9　【学外秘】2019 年度カリキュラム評価委員会議事録
資料6　大阪医科大学教学点検・評価委員会規程
資料4　大阪医科大学 教育戦略会議及び研究戦略会議規程
資料5　大阪医科大学 教育戦略会議及び研究戦略会議細則
資料 41　大阪医科大学ＩＲ室規程

３．　学生評価	3.2 評価と学習との関連

基本的水準　部分的適合

改善のための助言

・コンピテンシーレベルマトリックスに従い、認知領域のみならず、精神運動領域、情意領域の評価も実質化させるべきである。
・形成的評価と総括的評価の割合を見直し､学生の学修を促進する評価を行うべきである。

現在の状況

・コンピテンシーレベルマトリックスに従い、認知領域（知識）のみならず、精神運動領域（技能)、情意領域（態度）の評価も実質化させるべきである。
・形成的評価と総括的評価の割合を見直し、学生の学修を促進する評価を行うべきである。
＝シラバス作成 FD での意見より＝
・eポートフォリオ上での教員のコメント回答をさらに充実させていかなければならない（第6学年への拡充は済みである)。
・新カリキュラム「コア・CC」で各コースが実施可能な手技、症候アンケートを実施している。
・「学生の医行為」臨床実技を各コースにおける実習終了毎に提出させる（学生評価・自己評価・SEAと共に)。

今後の計画

・コンピテンシーレベルマトリックスに従い、認知領域（知識）のみならず、精神運動領域（技能)、情意領域（態度）の評価も実質化させるべきである。
・形成的評価と総括的評価の割合を見直し、学生の学修を促進する評価を行うべきである。
・e ポートフォリオ上での教員の学生へのフィードバックを啓発する（医学教育センターから各教育主任に指導する)。
・臨床実習において、経験する症候および医行為である臨床手技に関するチェックシートを作成する。
これらを用いることで、学生は臨床実習に関する経験を振り返ることができる。さらに指導医はこのポートフォリオを参考にすることで、効率良く指導を行うことができる。
以上は新カリキュラムに向けての実施を目標にする。

現在の状況を示す根拠資料

資料なし

３．　学生評価	3.2 評価と学習との関連

質的向上のための水準　適合

改善のための示唆

・PBL チュートリアルなどにおける知識の統合的活用、応用力の評価を進めることが望まれる。

改善状況

2020 年度には第 4 学年までが新カリキュラムとなり、旧カリキュラム第 3・4 学年でおこなっていた PBL チュートリアルが大教室 PBL（Team-based learning）となった。
ただ、新カリキュラムにおいても第 3 学年の最初の「診断学入門コース」には少人数制の PBL チュートリアルを残している（資料 19）。第 5 学年の「症候論」（特別講義・演習）で総合診療科長を中心とした症候論講義を行っているが、知識の統合的活用、応用力の評価をすすめるためにも、第 4 学年最後の「診断学コース」においても「症候論」の Team-based learning を取り入れ、同学年科目の「医療プロフェッショナリズム・コア２」における臨床技能実習にも役立てられるようにしている（資料 19）。
また、臨床における多職種カンファレンスや、多職種融合ゼミにおいても、PBL 的な材料を元に、統合的にディスカッションを行い、さらにポートフォリオとなるレポートを用いて総括的評価を行っている

今後の計画

第 5 学年の「症候論」を受けて、第 4 学年新カリキュラムにおいて「診断学コース」を新設し、臓器横断的な知識を統合した形で症候ベースのシナリオで問題解決を考えるＰＢＬチュートリアルを行う予定である。
また、今後、新大学になり医療系総合大学として、多職種連携教育をなお一層充実させ、多職種連携科目における知識の統合的活用、応用力の評価も改善しながら進めてゆきたい。

改善状況を示す根拠資料

資料19　2020年度全学年共通シラバス第3学年「診断学入門」p.238、第4学年「診断学」p.415、「医療プロフェッショナリズム・コア２」p.440
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/syllabus.html

４．　学生	4.1 入学方針と入学選抜

質的向上のための水準　適合

改善のための示唆

・アドミッションポリシーは、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーとも十分に整合性を検証し、かつ定期的に見直すことが望まれる。

改善状況

各ポリシーを定期的に見直す仕組みについては、2015（平成27）年に内部質保証を推進する全学的な組織として、教育研究活動の成長と活性化のための行動指針の策定・実施及び検証を行う「教育戦略会議」および「研究戦略会議」（以下、「戦略会議」という。）を立ち上げ（資料4、資料5）、戦略会議では、細則第2条に規定する事項について審議し、教育及び研究の関連学内組織と連携し、方針の策定や検証を実施し、戦略会議において策定した方針や施策については、PDCAサイクルにより検証・改善を行い学内外に公表する。また本学の理念・目的、および中長期計画についても、戦略会議において検証する仕組みを構築している。2019年度より「教学点検・評価委員会」を設置しその活動内容は、(1)戦略会議が実施した教学に関する諸活動全般、(2)内部質保証システム、(3)各種方針の検証結果（本学の中長期計画を含む。）等についての、改善・向上に関する事項について提言される予定である（資料6）。

アドミッションポリシーの、カリキュラムポリシーやディプロマポリシーとの整合性の検証については、アセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）制定以後、学習成果を評価するための的確なアセスメント項目を設定するとともに、それぞれのアセスメント項目に対して責任を持つ部門・部署を明確にし、それぞれが設定した学習成果を生み出しているかの点検と評価を行っている。その結果を踏まえて、さらなる教育の充実と学習成果向上のための改善に取り組む体制を構築している。また教育成果に関する情報収集･分析内容の根拠についてＩＲ室を置き資料を作成しており、2019 年度については、「2019 年度医学部入学試験ごとの入学後の成績分布（2018 年度との経年比較有）」の資料を用いて（資料 37）、第１学年および第２学年カリキュラム小委員会、医学教育センター会議で検証し、「特段入試種別による差異はない」と確認された。また医学部入試実務委員会および AO 運営委員会の反省会においてもそれぞれ検証されており、入学者選抜の妥当性検証、入試制度の改善検討を行ううえで活用されている。

今後の計画

医学部入学試験ごとの入学後の成績分析については今後も継続いてゆく。各ポリシーの定期的な見直しについても、アセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）を基にした点検と評価と併せて「教育戦略会議」および「研究戦略会議」、「教学点検・評価委員会」において検証・見直しを実施してゆきたい。

改善状況を示す根拠資料

資料4　大阪医科大学 教育戦略会議及び研究戦略会議規程
資料5　大阪医科大学 教育戦略会議及び研究戦略会議細則
資料6　大阪医科大学教学点検・評価委員会規程
資料 37　【学外秘】2019 年度医学部入学試験ごとの入学後の成績分析

４．　学生	4.3 学生のカウンセリングと支援

質的向上のための水準　部分的適合

改善のための示唆

・学習上のカウンセリングが適切になされているか検証し､統括する仕組みの構築が望まれる。
・カウンセリングの結果を学習プログラムの改善などに役立てることが望まれる。

改善状況

2018年度のIR室による「過去5年間（2013年～2017年）の国試不合格要因の分析」結果により、本学では特に、第3学年以降の成績、原級留置生に注視し、学習支援、カウンセリングに力をいれていくこととなった（資料42)。2019年度は試験的に6年の原級留置者および成績下位者支援（「学修方法の改善点」に重点を置く）を開始した。6学年6名の原級留置者への学習支援については、うち5名は卒業できることになり、当該年度の第114回医師国家試験においては、新卒受験生が全員合格するという快挙から、成績下位者を前期から支援してきた成果が表れたと自負している（資料43）。
また、学修支援体制については、2019 年度医学教育センター会議でもほぼ毎月報告提案がなされ（資料 44）、2020 年度にもつながっている。

今後の計画

2019 年度第 6 学年原級留置についてもすでに学修支援を開始しているが､グループ学習を身につけさせること、医師国家試験において必要とされる総合的な臨床推論能力の未熟さを再確認させることが必要である。また 2020 年度からは、副教育センター長が１～4 年の学習支援も担うことになり､各学年の進級判定総合試験やGPAに基づいた原級留置者・成績不良者に対するメンタリングを定期的に施行し今後も成績伸び悩みの学生の早期発見をめざす。

改善状況を示す根拠資料

資料42　過去5年間（2013年～2017年）の国試不合格要因の分析
資料43　医師国家試験合格率推移
資料44　【学外秘】2019年度医学教育センター会議議事録及び資料（学修支援体制）

５．　教員	5.1 募集と選抜方針
基本的水準　適合	
改善のための助言	
教員の業績の判定水準を明示すべきである。	
改善状況	
2019 年 9 月に、教員評価本格実施２回目を行った（資料 45）。その解析については COVID-19 流行のため作業が遅れている。	
今後の計画	
本格実施２回目の解析が COVID-19 流行のため後れており、解析結果とともに今後の計画も立てたい。	
改善状況を示す根拠資料	
資料 45　2019 年度の教員評価実施案内	

５．　教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準　適合	
改善のための助言	
・教育プログラムに対する全教員の理解をさらに推進すべきである。 **・教員の FD への参加をさらに促進すべきである。**	
改善状況	
2018年度に引き続き、専任教員は1年に1回必ずＦＤに参加することを義務付けており、開催ＦＤについては、本学ＨＰにて実績を公表している（資料11)。 2019 年度実績の一例としては、次のものあげられる。 ■2020 年度より第 4 学年が新カリキュラムになることを踏まえて 第4年講義部分FD: １回（資料23）、「コア・CC」部分FD：2回（資料21、資料22）を実施し、当該学年科目担当教員は出席必須であり、「コア・CC」部分FDにおいては担当部分の計画など発表することを義務付けた。 ■教育改善、教育質向上につなげる FD 「多職種連携教育とシミュレーション教育法」（資料46、資料47）、「医薬看融合教育」（資料48、資料49）に関するFDをシリーズ化して開催したり、「医師国家試験形式の選択式問題「作成」」FD（資料50）を実施し学内試験問題向上を図っている。	
今後の計画	
2020 年度からは、新任教員や TA を対象に教育サポート資質の向上を図るべく定期的な FD や研修等の取組みも実施予定である。	
改善状況を示す根拠資料	
資料11　2019（平成31）年度　教育関連FD https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fg7m.html 資料23　第92回医学教育センターワークショップ案内文 資料21　第81回医学教育センターワークショップ資料 資料22　第86回医学教育センターワークショップ資料 資料46　第82回医学教育ワークショップ案内（第7回多職種連携教育とシミュレーション教育法） 資料47　第90回医学教育ワークショップ案内（第8回多職種連携教育とシミュレーション教育法） 資料48　第84回医学教育ワークショップ案内（第1回医薬看融合教育研究会） 資料49　第91回医学教育ワークショップ案内（第2回医薬看融合教育研究会） 資料50　第85回医学教育ワークショップ案内	

６．　教育資源	6.2 臨床トレーニングの資源
基本的水準　部分的適合	
改善のための助言	
・すべての学生が臨床実習で経験した症候と疾患分類を把握し、臨床経験を積めるよう臨床トレーニング施設の充実を図るべきである。 **・慢性疾患やプライマリ･ケアを経験するための実習施設をさらに拡充すべきである。**	
改善状況	
臨床実習では、基幹病院だけでなく、地域医療などを含めた総括的な医療現場を経験することが重要である。そのため、学外実習の内容が重要となり、臨床実習協力病院には、在宅医療などの地域医療を含めた臨床実習を行うようなプログラムを依頼している。	
今後の計画	
・第５・６学年カリキュラム小委員会は、新カリキュラムの「アドバンス・CC」開始(2022 年 1 月)に向けて、臨床実習協力病院の指導医を対象とした FD プログラムの策定の準備を行っている。 ・臨床テキストブックのさらなる拡充、医療技能シミュレーション室を活用したテクニカルスキル導入、今後は遠隔学習資源を用いた知識・ノンテクニカルスキル面の拡充を図る。 ・慢性疾患・プライマリ・ケアに関しては、多職種連携教育の一環として、慢性期在宅診療や、慢性期小児診療・生活支援実習を拡充していく。	
改善状況を示す根拠資料	
なし	

7. プログラム評価	7.1 プログラムのモニタと評価

基本的水準　適合

改善のための助言

学生による授業評価やカリキュラム評価の回収率を高め、それらの評価結果をカリキュラムの改善へ反映する活動を進めるべきである。

改善状況

「授業評価アンケート」（資料51）、「学勢調査」（資料1）ともに、実施前の丁寧な説明、授業実施時間帯との調整をし実施したところ、2018年度に比べ回収率が大幅にアップした。

2019年度「授業評価アンケート」回収率

学年	回収率
1年	76.8%
2年	77.0%
3年	71.1%
4年	56.0%
5年	65.8%

＊第5学年の「クリニカル・クラークシップ」部分はe-ポートフォリオ参照。
＊第6学年の「選択臨床実習」はe-ポートフォリオ参照。
（資料32）

2019年度「学勢調査」回収率

学年	回収率
第1学年	84.4%
第2学年	87.0%
第3学年	95.8%
第4学年	85.5%
第5学年	96.7%
第6学年	91.92%

今後の計画

授業評価アンケートにおいてはまだ4年・5年の回収率が低いため、2020年度においてもより確実に回収できる方法を探っていきたい。学勢調査の「学修成果」部分については、ポータルサイトで実施するなどの計画がある。

改善状況を示す根拠資料

資料51　2019年度授業評価アンケート結果
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料1　2019年度学勢調査 - 学修成果部分 -
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料32　2019年度第5・6学年臨床実習における「自己評価（患者との向き合い方）」「学生評価（指導医や実習全体に関すること）」
第5学年：
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fezm.html
第6学年：
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000ffl0.html

７．　プログラム評価	7.2　教員と学生からのフィードバック

基本的水準　部分的適合

改善のための助言

教員と学生からのフィードバックを系統的に求め、分析し、課題に対応すべきで ある。

改善状況

2018年度に引き続き、学生からは授業評価アンケートおよび学勢調査結果によりフィードバックをもとめ、各学年カリキュラム小委員会（学生委員含む）（資料52、資料53）、カリキュラム委員会（学生委員含む）（資料27、資料54）、カリキュラム評価委員会（資料9）、医学教育センター会議において課題に対応する体制を整えている。特に例年11月に「医学教育センター教員、医学学生生活支援センター教員、各学年総代・副総代、学友会執行部役員による合同懇談会」を開催しているが、そこで各学年の学生からあがった意見をこれまではきちんと落とし込むシステムがなかった。2019年度からは12月の各学年カリキュラム小委員会に落とし込み、医学教育センター会議においてもその意見を踏まえ、次年度カリキュラムに活かすようにしている（資料55）。

＝学生や教員からの意見等踏まえた 2020 年度取組み課題＝

【第 1 学年】学生からの「物理化学をする前に物理の授業をしてほしい」に対する対応として、2020 年度は有機化学（前期）をしてから物理化学（後期）をする予定である。

【第 3・4 学年】学生からの「テストを 7 科目同時にされると、多すぎて各教科の知識をただ詰め込むだけになっている」という試験日程への意見に対し、2019 年度は勉強してほしいという気持ちも込めて夏期休暇後、冬期休暇後の 2 回試験期間を設定したが、2020 年度はマイナーチェンジではあるが、1 週間に 4 科目までの設定歳、年に 4 回に分散させることにした。また、「学生研究２」については、今年度実施した結果浮かび上がった問題を来月の小委員会において整理し、次年度の「学生研究３」や「学生研究２」につなげていきたい。

【第5・6学年】学生より「クリクラローテーション毎に提出するSEAなどのレポートを丁寧に書きたいので、提出期限をせめて週末終わるまでにしてほしい」という意見があり、クリニカル・クラークシップ終了週の土曜日午前12時から終了後の日日曜日午後12時(24時)とする。

また本来であれば教員からの2019年度フィードバックについては、例年通り全学的な「教育研究集会」を実施すべきところではあるが新型コロナウイルスの影響でまだ実施できていない。しかしながら、進級判定時や各委員会で出た意見（例として、「第5学年臨床実習履修評価試験の質を今後担保していくには」「ＣＢＴの合格基準見直し」）について、IR室に分析を依頼し、各学年カリキュラム委員会（学生委員含む）、医学教育センター会議等において検討を進めている（資料56、資料57、資料38、資料39）。

今後の計画

指摘事項は実質的に改善済であるが、これらの振り返り作業については、今後も継続していく必要がある。

改善状況を示す根拠資料

資料52　【学外秘】2019年度前期カリキュラム小委員会議事録

資料53　【学外秘】2019年度後期カリキュラム小委員会議事録

資料27　【学外秘】2020年1月15日開催カリキュラム委員会議事録
資料54　【学外秘】2019年7月19日開催カリキュラム委員会議事録
資料9　【学外秘】2019年度カリキュラム評価委員会議事録
資料 55　医学教育センター教員、医学学生生活支援センター教員、各学年総代・副総代、学友会執行部役員による合同懇談会での意見回答 - 各学年カリキュラム小委員会を経て -
資料56　【学外秘】2020年度5月カリキュラム小委員会議事録
資料 57　【学外秘】2020 年 5 月医学教育センター会議議事録
資料 38　第 5 学年臨床実習履修評価試験の検証に向けての予備分析
資料39　第4学年共用試験CBTにみる第3学年総合試験導入前後の変化

７．　プログラム評価	7.2　　教員と学生からのフィードバック

質的向上のための水準　部分的適合

改善のための示唆

フィードバックの結果を利用して、プログラムを開発することが望まれる。

改善状況

臨床実習におけるｅポートフォリオの活用
2018 年度、第 5 学年の臨床実習で実施したｅポートフォリオ上の学生がレポートと授業に関するアンケート（「学生評価（授業評価）」「自己評価」「SEA（Significant Event Analysis）」）を継続し、第 5 学年の「ＢＭＬ」、第 6 学年の「選択臨床実習」、第 2 学年の「早期体験実習」にも同様の機能を使用し拡大した。

フィードバック結果
・授業評価ンケート（上記ｅポートフォリオ含む）（資料 51、資料 32）
・学勢調査（資料1）
・卒業生アンケート（資料58）
・卒業生研修先アンケート（資料28））
「授業評価アンケート」「学勢調査」「卒業生調査」については2019年6月よりHP上にて情報開示している。「授業評価アンケート」については、各科目担当にフィードバックし、「授業評価アンケート」「学勢調査」「卒業生調査」結果については、2018年度同様、カリキュラム委員会（各学年カリキュラ小委員会含む）（資料56）、カリキュラム評価委員会（資料59）を開催している。カリキュラム評価委員会には、2019年度8月より市立ひらかた病院長に委員として入っていただくこととなり、2019年10月28日の２回目の会議においては「新カリキュラム臨床実習アド・CC」について広いご意見をいただいた（資料9）。
また、2019 年度末に卒業生研修先および学生臨床実習先にアンケートを実施。大阪医科大学「建学の精神」「使命」「ポリシー」等の相関図を示したうえで、大阪医科大学医学部「ディプロマポリシー」をもとに、今後医師となる者が身に着けておくべきだと思われる項目、本学卒業生の知識・技能・態度別の評価について調査した。
それらの情報を「医学教育センター会議」や「医学部教授会」、「教育戦略会議」でも報告し、カリキュラム検討資料として活かしている（資料 29、資料 30、資料 60）。

今後の計画

2019 年度：
臨床実習におけるｅポートフォリオの活用
今後、「多職種連携」部分でもユニバーサルパスポートを使ったフィードバックを活用していく予定である（2021 年度大阪薬科大学との合併を機に加速させてゆく）
フィードバック結果を活用するための仕組み（会議体）
カリキュラム委員会（カリキュラム小委員会）→医学教育センター会議の連携を密にし、小さなことでも学生や教員の意見を取り上げ、プログラムをより良いものとするよう活かしていきたい。

改善状況を示す根拠資料

資料51　2019年度授業評価アンケート結果
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料32　2019年度第5・6学年臨床実習における「自己評価（患者との向き合い方）」

「学生評価（指導医や実習全体に関すること）」
第5学年：
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fezm.html
第6学年：
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000ffl0.html
資料1　2019年度学勢調査 - 学修成果部分 -
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料58　2019年度実施卒業生アンケート
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料28　医学部教育の成果に関するアンケート調査（卒業生研修先アンケート）
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料56　【学外秘】2020年度5月カリキュラム小委員会議事録
資料 59　【学外秘】2020 年度第 1 回カリキュラム評価委員会議事録
資料9　【学外秘】2019年度カリキュラム評価委員会議事録
資料 29　【学外秘】2020 年 6 月医学教育センター会議議事録
資料30　【学外秘】2020年6月17日医学部教授会議事録
資料 60　【学外秘】2020 年 6 月教育戦略会議議事録

７．　プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準　部分的適合

改善のための助言

卒業生の業績や意見を収集し、分析するシステムを構築すべきである。

改善状況

研修2年目（研修2年目修了予定者）生全員へ本学のカリキュラムについての調査を実施し昨年度よりも調査対象を広げた（資料58）。
また研修 2 年目修了予定者（卒業後 2 年目）が研修している全機関へ、本学の DP に基づく研修生評価および、今後医師となる者が身に着けておくべきだと思われる項目について調査を実施（資料 28）。収集した結果や意見については、2018 年度に引き続きＩＲ室にて分析を行い（資料 40）「医学教育センター会議」（資料 57、資料 29）「カリキュラム評価委員会」（資料 59）でも報告し、カリキュラム検討資料として活かしている
在学生、卒業生自らの分析、研修先からの分析でも共通しているのが、本学ディプロマポリシー「医療の国際性」への到達度が若干低いということである。

今後の計画

卒業生アンケート、研修先アンケートともに継続して調査し、経年比較やカリキュラム見直しに役立てる仕組みとして盤石なものとしていく。また「医療の社会性と国際性」に関しては、2018 年度報告にも記載したとおり国立台湾大学と単位互換をスタートさせるなど国際性そのものの内容を上げていく努力をしているが、今後もすそ野を広げる努力を続けていく。

改善状況を示す根拠資料

資料58　2019年度実施卒業生アンケート
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料28　医学部教育の成果に関するアンケート調査（卒業生研修先アンケート）
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料40　【学外秘】2019年度卒後研修医評価と卒前総合試験成績の関連
資料 57　【学外秘】2020 年 5 月医学教育センター会議議事録
資料 29　【学外秘】2020 年 6 月医学教育センター会議議事録
資料59　【学外秘】2020年度第1回カリキュラム評価委員会議事録

７．　プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準　部分的適合	
改善のための示唆	
学生の入学時成績や選抜の実績を連続的に分析し、その結果を活用することが望まれる。	
改善状況	
ＩＲ室において「2019年度医学部入学試験ごとの入学後の成績分析」を実施（資料37)、「2018年度入学試験別の第1学年GPA分布」との経年比較もできる資料となっている。 第1学年および第2学年カリキュラム小委員会、医学教育センター会議でも検証し、「特段入試種別による差異はない」と確認された。また医学部入試実務委員会およびAO運営委員会の反省会においてもそれぞれ検証されており（資料61、資料62）、入学者選抜の妥当性検証、入試制度の改善検討を行ううえで活用されている。	
今後の計画	
アセスメントポリシーに従ったデータの収集、解析が、入試・広報部、学務部教育センター課、医学教育センター、IR 室の共同で始まっており、定着しつつある。今後もこのシステムを継続した上で、課題の抽出とカリキュラムへのフィードバックも続けていきたい。	
改善状況を示す根拠資料	
資料37　【学外秘】2019年度医学部入学試験ごとの入学後の成績分析 資料61　【学外秘】22020年5月開催医学部入試反省会会議録 資料62　【学外秘】2020年5月開催AO運営委員会反省会会議録	

７．　プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与

質的向上のための水準　部分的適合

改善のための示唆

プログラムの評価の結果を閲覧することが可能な対象者を拡大し、教育成果や卒業生の実績、カリキュラムに対するフィードバックを受けることが望まれる。

改善状況

「授業評価アンケート」「学勢調査」「卒業生調査」については 2019 年 6 月より HP 上にて情報開示している（資料 51、資料 32、資料 1、資料 58）。「授業評価アンケート」については、各科目担当にフィードバックし、「授業評価アンケート」「学勢調査」「卒業生調査」結果については、2018 年度同様、カリキュラム委員会（各学年カリキュラ小委員会含む）（資料 56）や医学教育センター会議（資料 29）、カリキュラム評価委員会（資料 59）でも報告検討している。カリキュラム評価委員会には、2019 年度 8 月より市立ひらかた病院長に委員として入っていただくこととなり、2019 年 10 月 28 日の２回目の会議においては「新カリキュラム臨床実習アド・CC」について広いご意見をいただいた（資料 9）。
また、2019年度末に卒業生研修先および学生臨床実習先にアンケートを実施。大阪医科大学「建学の精神」「使命」「ポリシー」等の相関図を示したうえで、大阪医科大学医学部「ディプロマポリシー」をもとに、今後医師となる者が身に着けておくべきだと思われる項目、本学卒業生の知識・技能・態度別の評価について調査した（資料28）。それらの情報を上記の会議で報告、検討し、カリキュラム検討資料として活かしている。

今後の計画

カリキュラム評価委員会に充実した資料を提示し、本学カリキュラムへの評価をいただき、カリキュラム検討に役立てていきたい。研修先への調査も継続していく。

改善状況を示す根拠資料

資料51　2019年度授業評価アンケート結果
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料32　2019年度第5・6学年臨床実習における「自己評価（患者との向き合い方）」「学生評価（指導医や実習全体に関すること）」
第5学年：
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fezm.html
第6学年：
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000ffl0.html
資料1　2019年度学勢調査 - 学修成果部分 -
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料58　2019年度実施卒業生アンケート
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料56　【学外秘】2020年度5月カリキュラム小委員会議事録
資料 29　【学外秘】2020 年 6 月医学教育センター会議議事録
資料 59　【学外秘】2020 年度第 1 回カリキュラム評価委員会議事録
資料9　【学外秘】2019年度カリキュラム評価委員会議事録
資料28　医学部教育の成果に関するアンケート調査（卒業生研修先アンケート）
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html

８．　統合および管理運営	8.1 統括
質的向上のための水準　適合	
改善のための示唆	
すべての教員が教育に関する提案ができ、それを反映させる仕組みの充実が望まれる。	
改善状況	
2018年度同様に、教育関連ＦＤ活動を教育改善、教育質向上につなげていきたいと考えており、2019年度も各種ＦＤを開催した（本学ＨＰにて実績を公表）（資料11）。特に新カリキュラムに関するＦＤは、当該学年科目担当教員には必ず出席（責任者ないし代理）し同学年他科目の状況も理解する機会となっている。また、専任教員は1年に1回必ずＦＤに参加することを義務付けている。どうしても参加ができない場合にもＦＤの様子をＤＶＤ収録し、それを確認できる仕組みを設けている。 組織的には、各教室に１名「教育主任」を置き「教育主任会議」を開催する、大講座ごとに「医学教育センター教員」を選出し「教育センター会議を開催する」などの取り組みも継続している。また、「各学年カリキュラム小委員会」、「カリキュラム委員会」も定期的に開催しており、意見を集約し新カリキュラム構築やカリキュラム見直しを進めている。	
今後の計画	
まだ新カリキュラム進行途中ということもあり、ＦＤの活性化を継続していく。FDでは、小グループでのディスカッション形式も入れながら、参加教員の意見をカリキュラムに大いに取り入れている。また、「各学年カリキュラム小委員会」、「カリキュラム委員会」、「教育主任会議」での教員からの意見についても今後もカリキュラムに活かしていきたい。	
改善状況を示す根拠資料	
資料11　2019（平成31）年度　教育関連FD https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fg7m.html	

８．　統合および管理運営	8.4 事務と運営

質的向上のための水準　適合

改善のための示唆

設置された IR 室の効果的な運用の仕組みを検証することが望まれる。

改善状況

アセスメントポリシー（学修成果の把握に関する方針）に基づく点検と評価のうち、とりわけ課程レベルにおいては学年全体の単位とする学習成果の確認が求められるため、学生個々の成績や評価に関わるデータを統計的に処理して可視化することが必要となる。そのため、教育の改善に資する調査･分析の客観的データによるトップマネジメントへの知見の提供と学生の質向上に資することを目的とした IR 室を置き（資料 41）、教育成果に関する情報収集･分析内容を根拠として、点検・評価に活用している。

IR 室による分析は、おもに医学教育センターから提供された学生の成績を中心とする学修データに基づいて行う。統計的分析の結果は、医学教育センター会議、カリキュラム委員会、カリキュラム評価委員会といった課程レベルの会議・委員会に資料として提出され、科目やカリキュラムの妥当性の評価、さらには改善・向上に向けた施策の根拠としている。

【2019 年度ＩＲ室による分析例】

・2019 年度医学部入学試験ごとの入学後の成績分析（資料 37）
・GPA 分布（経年比較あり）（資料 34）
・第 5 学年臨床実習履修評価試験の検証に向けての予備分析（資料 38）
・第4学年共用試験CBTにみる第3学年総合試験導入前後の変化（資料39）
・学勢調査 - 学修成果部分 -（資料 1）
・2019 年度卒後研修医評価と卒前総合試験成績の関連（資料 40）

今後の計画

ＩＲ室の役割が明確になり、教育成果に関する情報収集･分析内容を根拠として、点検・評価に活用し始めることができていると言える。毎年調査し経年比較するものと、ある程度の期間をおいて分析依頼するものについて今後整理していきたい。

現在の状況を示す根拠資料

資料 41　大阪医科大学ＩＲ室規程
資料 37　【学外秘】2019 年度医学部入学試験ごとの入学後の成績分析
資料 34　学年ごとの単年度ＧＰＡ分布
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/gpa2019.html
資料 38　第 5 学年臨床実習履修評価試験の検証に向けての予備分析
資料39　第4学年共用試験CBTにみる第3学年総合試験導入前後の変化
資料1　2019年度学勢調査 - 学修成果部分 -
https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html
資料 40　【学外秘】2019 年度卒後研修医評価と卒前総合試験成績の関連

2020 年度年次報告資料一覧

資料番号	資料名	形態
1	2019 年度学勢調査-学修成果部分- https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html	web
2	医学部 2020 年度シラバス掲載ページ https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/syllabus.html	web
3	オリエンテーション配布ミニカード	PDF
4	大阪医科大学 教育戦略会議及び研究戦略会議規程	PDF
5	大阪医科大学 教育戦略会議及び研究戦略会議細則	PDF
6	大阪医科大学教学点検・評価委員会規程	PDF
7	大阪医科大学内部質保証と自己点検の概念図	PDF
8	大阪医科大学医学部カリキュラム評価委員会規程	PDF
9	【学外秘】2019 年度カリキュラム評価委員会議事録	
10	大阪医科大学 3 ポリシーの運用のための方針	PDF
11	2019（平成 31）年度 教育関連 FD https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fg7m.html	web
12	FD＆SD「教育・研究集会」概要 https://www.osaka-med.ac.jp/about/f2pjgc00000064le.html	web
13	第 83 回大阪医科大学医学教育 WS 案内文	PDF
14	第 83 回大阪医科大学医学教育 WS 次第	PDF
15	第 83 回大阪医科大学医学教育 WS 資料「2020 年度シラバス作成方法」	PDF
16	第 83 回大阪医科大学医学教育 WS 資料「2020 年度シラバス作成方法-CC-」	PDF
17	医学部科目ナンバリング https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000cq1i.html	web
18	大阪医科大学医学部 2019 年度開講科目アクティブラーニング実施状況一覧	PDF
19	2020 年度全学年共通シラバス https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/syllabus.html	web
20	【学外秘】2019 年度医学部第 3 学年学生研究2実施要項	
21	第 81 回医学教育センターワークショップ資料	PDF
22	第 86 回医学教育センターワークショップ資料	PDF
23	第 92 回医学教育センターワークショップ案内文	PDF
24	2019 年度大阪医科大学附属病院連携病院長会・2020 年度 ADCC（旧選択臨床実習）説明会アンケート結果まとめ	PDF
25	【学外秘】2019 年度大学統合に関する分科会グループ 1 議事録	
26	【学外秘】2019 年度多職種融合カリキュラム小委員会議事録	
27	【学外秘】2020 年 1 月 15 日開催カリキュラム委員会議事録	
28	医学部教育の成果に関するアンケート調査（卒業生研修先アンケート） https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000ffvc.html	web
29	【学外秘】2020 年 6 月医学教育センター会議議事録	
30	【学外秘】2020 年 6 月 17 日医学部教授会議事録	
31	【学外秘】大阪医科薬科大学 医学部規程（案）	
32	2019 年度第5・6学年生臨床実習における「自己評価（患者との向き合い方）」「学生評価（指導医や実習全体に関すること）」 第 5 学年：https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fezm.html	web

	第 6 学年：https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000ffl0.html	
33	医学部 GPA（Grade Point Average）実施について https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/gpa.html	web
34	学年ごとの単年度GPA分布 https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/gpa2019.html	web
35	大阪医科大学学則	PDF
36	大阪医科大学学部教育内部質保証関係図	PDF
37	【学外秘】2019 年度医学部入学試験ごとの入学後の成績分析	
38	5 年生臨床実習履修評価試験の検証に向けての予備分析	PDF
39	4 年生共用試験 CBT にみる 3 年生総合試験導入前後の変化	PDF
40	【学外秘】2019 年度卒後研修医評価と卒前総合試験成績の関連	
41	I 大阪医科大学IR室規程	PDF
42	過去 5 年間（2013 年～2017 年）の国試不合格要因の分析	PDF
43	医師国家試験合格率推移	PDF
44	【学外秘】2019 年度医学教育センター会議議事録及び資料	
45	2019 年度の教員評価実施案内	PDF
46	第 82 回医学教育ワークショップ案内（第 7 回多職種連携教育とシミュレーション教育法）	PDF
47	第 90 回医学教育ワークショップ案内（第 8 回多職種連携教育とシミュレーション教育法）	PDF
48	第 84 回医学教育ワークショップ案内（第 1 回医薬看融合教育研究会）	PDF
49	第 91 回医学教育ワークショップ案内（第 2 回医薬看融合教育研究会）	PDF
50	第 85 回医学教育ワークショップ案内	PDF
51	2019 年度授業評価アンケート結果 https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fduy.html	web
52	【学外秘】2019 年度前期カリキュラム小委員会議事録	
53	【学外秘】2019 年度後期カリキュラム小委員会議事録	
54	【学外秘】2019 年 7 月 19 日開催カリキュラム委員会議事録	
55	医学教育センター教員、医学学生生活支援センター教員、各学年総代・副総代、学友会執行部役員による合同懇談会での意見回答	PDF
56	【学外秘】2020 年度 5 月カリキュラム小委員会議事録	
57	【学外秘】2020 年 5 月医学教育センター会議議事録	
58	2019 年度実施卒業生アンケート https://www.osaka-med.ac.jp/faculty/medical/f2pjgc000000fman.html	web
59	【学外秘】2020 年度第 1 回カリキュラム評価委員会議事録	
60	【学外秘】2020 年 6 月教育戦略会議議事録	
61	【学外秘】2020 年 5 月開催医学部入試反省会会議録	
62	【学外秘】2020 年 5 月開催 AO 運営委員会反省会会議録	